

未成年のネットによる誘い出しリスクの分析

—2018 年度および 2019 年度の神奈川県高校生調査より—

○田代光輝 (TASHIRO Mitsuteru)

Keywords : 誘い出し ネットリスク ネットトラブル LINE Twitter

1 目的

本研究の目的は、未成年のネットによる誘い出し予防のための研究である。

警察庁の調査 [警察庁, 2019]によれば、2018 年度の SNS を起因とする被害未成年数は合計 1,881 人である。被害者は小学生 55 人、中学生 624 人、高校生 991 人、その他 141 人である。本研究では、これらのリスク軽減のため、安全学の観点から分析を進める。

2 方法

本調査は 2016 年から神奈川県教育委員会、LINE 株式会社、多摩大学情報社会学研究所が継続的に行っている調査 [LINE]の 2019 年度分の調査分析である。調査方法は、教育委員会を通じて、学校にアンケート用紙を送付し、学校の教室内で教員から児童・生徒にアンケート用紙を配布。児童・生徒はその場で回答、記入後に専用の封筒で封緘したうえで、学校毎に取り纏めて集計場所へ郵送した。集計場所でデータ化し、そのデータを多摩大学情報社会学研究所で受け取って、分析を行った。

3 結果

分析の結果、高校生では半数近くがネット上で出会った友達がいる。内訳は、同世代の高校生が 75.1%、大学生や社会人が 7.2%と 7.0%、。不明が 5.6%となっている。知らない人からのメッセージ受信が 1 年間に 1 回以上ある割合は小学生で約 25%、中学生で約 50%、高校生では約 70%である。使われるツールは Twitter や LINE から、Instagram に移りつつあり、先行研究が示すように、利用されるサービスは頻繁に変化している。また、メアド ID 及び顔写真を SNS で公開していると、メッセ受信の頻度が上がる結果となった。

リスクの軽減対策としては、メアド ID 及び顔写真を SNS で公開していると、メッセ受信の頻度あがる傾向にある。また、情報リテラシー教育を受けると、写真対応で断る・大人に相談する割合が増加する。これは、未成年のネットリスクを下げるために、教育が一定の効果を発揮しているといえる。

4 結論

分析の結果、①ネットの出会いは日常的にあり、その中に多くのリスクが潜んでいる、②リスクの発端となるサービスは常に移り変わるため、定期的な調査が必要、③顔写真の公開などがリスクを増加、④リテラシー教育は予防処置として一定の効果がある、という結論となった。しかし、2020 年からのコロナ禍によるネット利用の変化なども予測され、今後さらなる調査が必要である。

【主要参考文献】

警察庁.”平成 30 年における SNS に起因する被害児童の現状. 警察庁少年課”2020

西口 真央不二夫 , 高野 雅典鳥海.”メタデータを利用したソーシャルメディア内グループのネットリスク検知.” 情報処理学会論文誌ジャーナル(Web) 61 号 1639-1646 (WEB ONLY) 2020 年 10 月 15 日